

2024年度 ニチイキッズ湯梨浜ながえ保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を下記の通り公表いたします。

また、自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025年1月31日（月）～2月7日（金）
	実施方法	全職員に自己評価についての趣旨を説明し、自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月25日（火）
	実施方法	自己評価、園の課題の振り返りを踏まえ、協議し、保育園、保育者の課題等を明確化し、来年度に向けて改善策・課題検討を行った。

項目ごとの評価	
保育理念	園の保育理念「おもいっきり遊ぶ、おもいっきり学ぶ」に則り、保育目標において、園のめざす子ども像「感じたことや考えたこと、経験したことを自分なりに表現する子ども」を掲げ、園としての重点的に取り組む目標を設定し、保育研究・研修等により保育の共通理解を図ることに取り組んだ。保育士がより良い丁寧な保育、安心安全な保育を目指して、子どもの最善の利益を追求しつつ、保育をすることに努めることができた。今後も保育士等一人一人が、保育所保育指針を基盤として幼児理解を深めつつ、園の保育理念・保育目標を理解し、全職員で保育に取り組んでいく。
子どもの発達の援助	0.1.2 歳児の保育園として、乳児期（0～3歳未満）は子どもの身心の発達にとってきわめて重要な時期と理解した上で、子どもの実態を捉えつつ、年齢に合わせた発達段階、身体的・情緒的成長の発達段階に合わせながら保育に取り組んできた。子ども一人一人を理解し、発達段階を踏まえ、この時期の成長発達に大事なことは何かを常に意識して保育・個々の発達段階に添った援助を行ってきた。重点目標の「年齢、発達段階に合わせた遊びや援助、環境構成」において、子ども自らが安心して遊びや活動に取り組めるような環境構成を心がけ、日々子ども一人一人の姿、発達段階を捉えながら理解し、年齢、発達段階に細やかに添った保育を行ったことで子どもの変容が見られた。
保護者に対する支援	0.1.2 歳児の少人数の園ということを特色として活かし、保護者にとっても子どもにとっても安心できる園（場所）として、保護者との丁寧な関わり、連携を行うことを日々心がけてきた。園での保育の様子を送迎時に丁寧に伝達、玄関に写真掲示、ホームページに掲載する等、普段の園での様子を日々発信することで、保護者が保育に安心感を得られるよう努めてきた。子育て中の保護者のよりどころの一つ（相談・援助等）となるよう、保護者支援の研修も多く取り組んだ。園が地域の子育て支援拠点の一つとなるよう、外部への働きかけも行ってきた。地域の子育て世帯に来園してもらえるよう、今年度は月2回のオープンデー「子育てひろば」を実施した。今後も子育て中の保護者の居場所としての役割も担っていける園でありたいと考える。
保育を支える組織的基盤	今年度も外部有識者（保育専門）、第三者評価委員、保護者代表との運営委員会を行う。年間の保育を共に振り返り、課題点は全職員（園内・社内）で共有し改善策を話し合う。保育士等の配置充実、保育研修・研究会等の外部・園内研修や職員会他、社内研修も実施し、職員のスキルアップ・キャリアアップを図り、個々の自己研鑽、チームとしての保育士の資質向上、保育の質向上を目指す。幼児理解を深め、様々な学びを保育に活かしていくことで、今後も園として、保育士としての目標を明確にし、園の職員として同僚性を高め、保育（目標）へ向かう意識、専門性を高めていきたい。

総評
今年度も保育目標を概ね達成していると評価している。一人一人に丁寧に向き合う保育を心掛け、より良い保育を全職員が共に考え、チームとして理念、目標を意識した保育を大切にしてきた。その中で、本園のめざす子ども像をしっかりと捉えつつ、「子どもの主体性を大切にした保育」「子ども一人一人の理解」「子どもの発達段階に合わせた保育」を園の保育課題とし、研究主題「身近な人との関わりを深め、安心して自己表現する子どもへ」への取り組みとして、保育者や友だち、地域の方との関わり、生活発表会等での自己表現の場を設けることで、個々に自己表現の意欲や自信につながっていったと思う。そして、1年を振り返り、適正な目標・課題設定であったか、園としての目指す子ども像を捉え連動した保育計画、指導案等が保育に反映できていたかを話し合う。次年度への課題、改善策として、職員一人一人が、年齢・発達段階に合った保育を行う為、乳児、1歳以上3歳未満児の保育に携わる専門職としての学び（研究、研修等）によって様々な自己研鑽に努めていく。 「子どもの人権－児童虐待・不適切保育について」の研修を毎月行った。繰り返し学びを続け、職員の意識改革を行う。 次年度も職員がチームとして同僚性を高めつつ、園としての保育の指針や目標を見据え、保育の資向上を目指してより良い、安心安全な保育（園）となるよう努めていく。 事故予防策、災害対策、衛生管理徹底に取り組んだ。食に関しても徹底した管理と食育の工夫を行っている。安心安全な保育を行うにあたり、様々なリスク管理徹底に努める。今後も保護者の方々の理解、協力も得ながら、子どもと保護者、職員の健康、安全を守る為、そして、子ども達が伸び伸びと安心して遊びこめる生活、環境、食事、行事等の工夫を見直していく。 地域の中での子育て支援の拠点（園）としての役割は、の特性を活かし、一人一人に丁寧な保育、安心安全な給食等、園の活動内容（HP等）で少しずつ周知されてきている。今後も、園の保育内容や取り組み、実情などの情報発信に努めていきたい。身心共に元気で明るく、様々な遊びや体験からワクワク心を動かす子ども、様々な人と関わる中で、自分や友だち、人を大切にする思いやりのある子どもに育つ保育を目標、課題とし、今後も職員が一つのチームとして同じ方向を目指して保育に取り組んでいく。